



SOUSEI Program for Risk Information
on Climate Change

気候変動リスク情報創生プログラム

2015. 10. 13

気候変動リスク情報創生 プログラムについて

プログラムディレクター

住 明正

国立環境研理事長



現在の状況(1)

- 2015年末のCOP21で、どのような枠組みが決まるか？
- 日本の約束 2030年 2013年度比26%減
(2005年度比25.4%減)
- エネルギーミックスの議論
- 主要国の申請を合わせても2°Cターゲットには不十分

現在の状況(2)

- 地球温暖化の進行を止めるのは非常に困難になっている
- 発展途上国は、適応策を求めている
- 将来、起きる事態に対し、何らかの準備をしておく必要がある
- しかしながら、将来の事態は、不確実性もあり、また、影響も多様である
- また、問題は山のごとくある。



というわけで

- 地球温暖化のみならず、ほかのリスク(災害、高齢化、貧困、医療、介護など)にも備えなければならない
- **リスク**として総合的に扱う必要がある

リスクとは

- **人間社会**に不都合な状態、あるいは、それを引き起こすこと
- **ハザード、暴露、脆弱性**で決まる
 - ハザードとは、リスクを引き起こす可能性のある気象・気候現象
 - 暴露とは、人間社会と関係があるか？
 - 脆弱性とは、「備えあれば憂いなし」

気候変動は始まっている？



鬼怒川決壊9人不明 関東豪雨

鬼怒川が堤防を突破し、周辺地域が水浸しとなった。9人の行方不明者が発生している。関東地方は連日豪雨が続いており、各地で被害が拡大している。



鬼怒川は、栃木県と群馬県にまたがる。今回の決壊は、群馬県境付近で発生した。被害を受けた地域には、多くの住民が避難している。関係当局は、引き続き警戒を呼び出している。

関東で被害拡大

関東地方は連日豪雨が続いており、各地で被害が拡大している。特に、鬼怒川沿いの地域で被害が深刻化している。関係当局は、引き続き警戒を呼び出している。

想定超す大雨複合要因

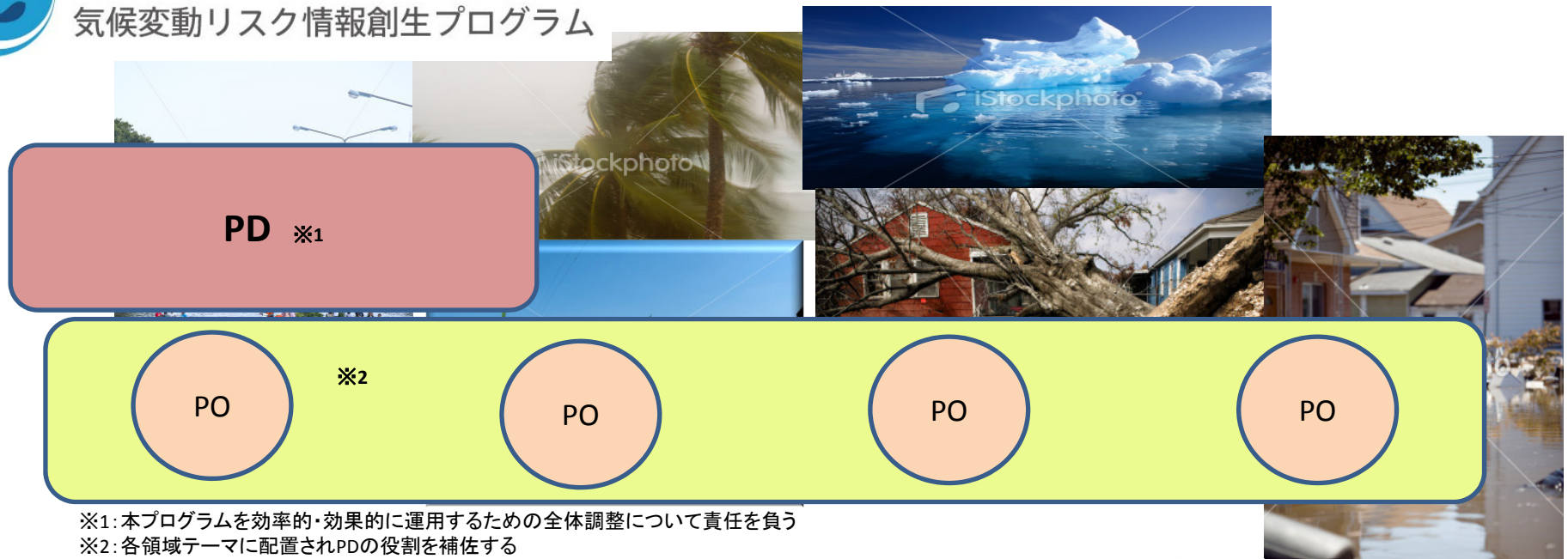
2つの台風、南北に雲の帯

2つの台風が日本列島を縦断し、南北に雲の帯を形成している。この複合的な要因により、関東地方を中心に豪雨が発生している。関係当局は、引き続き警戒を呼び出している。



リスク情報のためには

- いずれにせよ、時間的にも空間的にも細かな気象・気候情報が必要
- **それが、可能か？**
- **その信頼性は？**
- ダウンスケーリングと台風



※1: 本プログラムを効率的・効果的に運用するための全体調整について責任を負う
 ※2: 各領域テーマに配置されPDの役割を補佐する

領域テーマA
(東大AORI)

・直面する地球環境変動の予測と診断 他

領域テーマB
(海洋研究開発機構)

・安定化目標値設定に資する気候変動予測 他

領域テーマC
(筑波大)

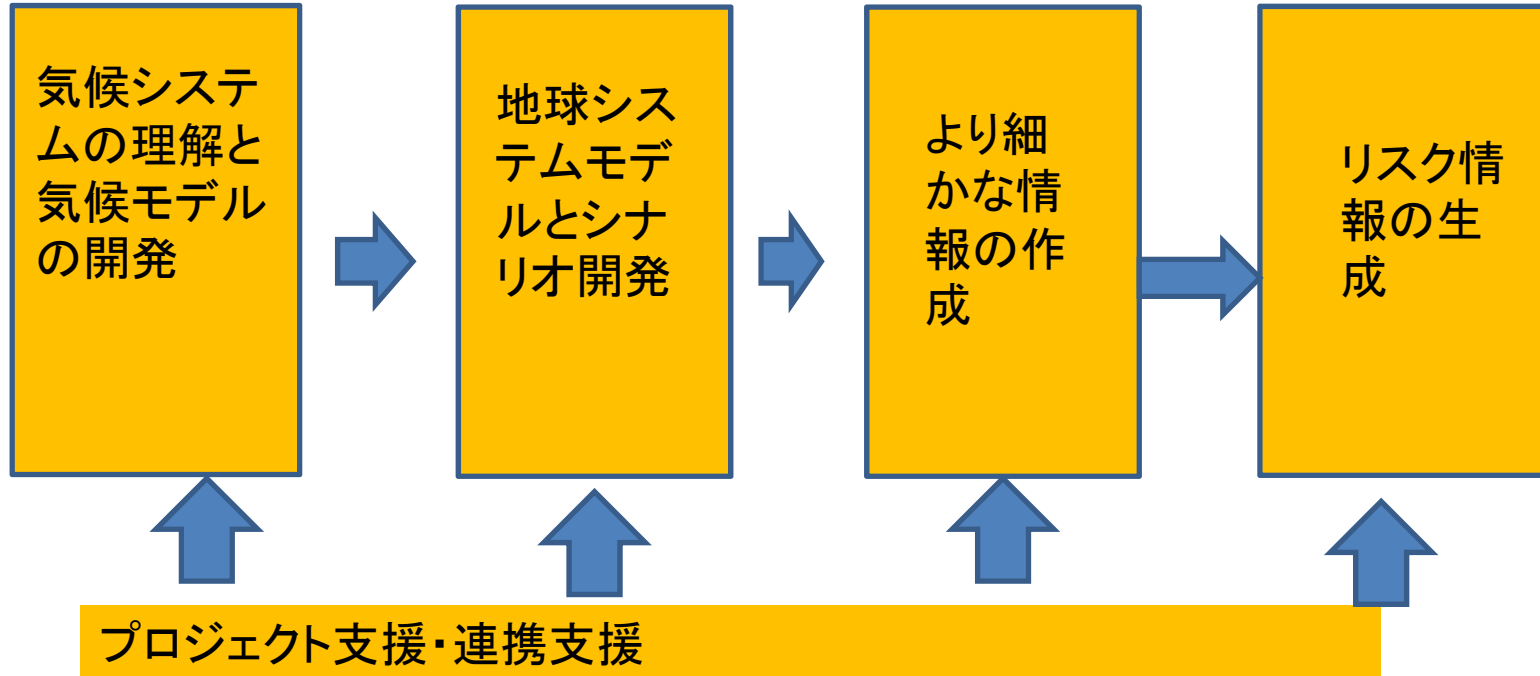
・気候変動リスク情報の基盤技術開発 他

領域テーマD
(京大防災研)

・課題対応型の精密な影響評価 他

構造

- AからDまで一貫したプログラム構造
- 連携支援の構造
- 社会的な課題に答える
- 公募課題を組み込む



今回は、

- 領域Aと領域Cから2題ずつ、最新の成果を発表する
- 異常気象への地球温暖化影響
- 気候感度
- ダウンスケーリング
- 広域陸面モデリング